

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム 稲武の家 (1号館)		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310		
自己評価作成日	H27年 9月 30日	評価結果市町村受理日	平成28年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26		
訪問調査日	平成27年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然あふれる環境の中で、ゆっくりとした時の流れを大切に過ごして頂く支援を行っている。個人の意思を大切に、自分のペースで生活出来る様に見守っている。趣味や特技を皆で共有出来る環境作りを意識している。地元の方との交流の場を増やし、地域に根付いた施設を目指している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者ひとり一人の特技や好きなことが活かせるような意向に添ったケアプランを作成して日々の支援に努めている。防災自主訓練を職員が計画を立てて実行しており、防災に対して意識の向上となっている。年2回開催される家族会は多数の参加があり好評である。また職員と家族が顔馴染みとなり話しやすく信頼関係が築かれている。地域との交流も、小学生の職場体験や民生委員の人達、ボーイスカウトとの交流など多岐に渡る交流に努めており、地域に根付いている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関出入口に常時掲示してあり職員がいつでも確認出来るようになっている。	日頃から理念について職員会議を含めて話し合う機会を持っており、理念は周知している。また、支援方法が理念に添っていない時には、管理者が理念の意義を職員に納得をしてもらえよう説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区合同の防災訓練に参加したり、地元小学校とも交流を図っている。地区の祭りの際は地元の方々の配慮もあり施設前に山車が通り、間近で太鼓の演奏もして頂いている。	町内の回覧板に事業所の行事企画を出し参加を呼びかけた所、地域の人が6名程参加があった。近隣の喫茶店の配慮で、利用者の誕生会が行えるなど、地域との交流を職員間で話し合い様々な形で積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元ボランティアの受け入れ、小学生との交流、中学生職場体験等を通して認知症理解への発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な立場を持った参加者の様々な視点より意見を出し合って頂き今後のサービス向上の指針としている。	会議では、事業所の現状報告や活動報告、意見交換を行っている。その中で往診や通院についての説明や家族交流会開催場所の検討などを話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターとは常に情報交換を行っている。利用者様の入居相談のみにとどまらず、地域全体としての情報把握に努めている。	市役所担当課とは、書類面などを提出する時に情報交換をしている。年2回の介護相談員の会議に出席して意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修計画に毎年組み込まれており職員の身体拘束への理解は高い。身体拘束が及ぼす負の影響を職場全体で意識した介護を行っている。	年1回法人の身体拘束に関する研修があり、振り返ることが出来たり、職員会議で事例検討をしており、職員の意識統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても研修計画に組み込まれている。日頃より個々への理解を深め虐待の起こらない環境作りを日々行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について全体で学ぶ機会は設けておらず現在は一部職員の理解にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に管理者が十分な説明を行ったうえで契約を締結している。変更や改定がある場合は事前に連絡、説明し承諾を頂く様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や家族への手紙を定期的を送付する等、御家族との距離を縮め要望の出しやすい関係づくりに努めている。	日頃から面会や電話などで家族と連絡を密にとっており、要望など言ってもらえる良好な関係を築いている。今後の利用者の支援方法などについて、家族と相談して進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回開催し意見や提案を出し合える環境となっている。また本部相談窓口が常時開設されており気軽に意見出来る環境となっている。	エリア責任者を含めた会議を毎月1回開催している。職員会議の議題を職員が持ち回りで考えて提案し、話し合いを行う様にしている。外出支援などについて様々な意見が出され改善できたり、また、リビングの畳スペースをフロアに変更した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に伴う手当の支給など各自の努力、向上心が給与に反映される仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は社内ですべて月に一度実施されている。必要や希望に応じては社外の研修にも各自参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内における交流、研修等は行っているが社外との交流は持っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の毎日の生活を観察したり要望等を気軽に話せるような信頼関係を築き安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や要望をしっかり聞き取り、想いを提供サービスに反映させている。説明と同意に重きを置き信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族の両視点より必要なサービス見極め提供している。ニーズの変化を常に話し合いそれに対応したケアを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットケアの特性を活かし常に顔を合わせ気軽に話が出来様な関係の構築を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回は家族会を開催し御家族との交流を図っている。御家族との連絡も密に行い御本人の想いや近況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊等に制約は設けず、自由に行動して頂いている。地元ボランティアも積極的に受け入れ関係が途切れることのないよう努力している。	家族の協力を得て馴染みの店に外食や買い物に出かけている。入居してから大正琴や踊りなどのボランティアの人達との交流で顔馴染みとなり、来訪を楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や特徴を一人一人個別に把握し必要に応じた仲立ちを行い、利用者様同士が気持ちよく関わり合いを持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は御家族と積極的に連絡を取る事はないが、移動先の施設や病院に赴く事はある。また相談等で連絡があった場合などは必要に応じてその都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人を個別化し本人の希望、意向に沿った対応を日々心掛けている。言葉にならない思いや不安についてもカンファレンス等で話し合いを持ち本人本位のケアを検討している。	日常の会話の中で、利用者の思いを感じ取るように努めている。1対1になるお風呂介助のときなどに、本音を聞き出しやすい。話すことが難しい人は、好みや趣味を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集を行い、フェイスシート、アセスメントシートを作成している。また入居後のなにげない会話よりも情報を増やしその方の人生を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の中で、一人一人の心身の状態把握に努めている。正確な情報のもとで残存機能や能力を見極め維持、向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービスプラン作成時はサービス担当者会議を開催し御本人、御家族の想いや意向を反映させている。作成後も定期的にモニタリングを実施し実践とその評価について検討している。	カンファレンスで家族や職員より意向などを聞いて、その人の思いが入っているプランを作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記入する介護記録には食事の摂取量、バイタル数値、服薬の有無、日中や夜間の様子等個々の詳細な情報を記録している。職員も毎日必ず目を通し最新の状態を把握するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状では施設外のサービスは利用出来ない。ニーズに対応する為、可能な限りの支援は行っているが今後の課題となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然が溢れる環境を活かし散歩に出掛けたり、季節を感じる景色の中をドライブしたり外食に出掛けたりもしている。また地元小学校との交流も活発になり皆様に喜んで頂けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院、地元の医院との連帯が確立されている。定期的に往診をして頂き、相談のしやすい環境となっている。また緊急時には時間外でも駆けつけて頂ける体制となっており安心した生活を送る事が出来ている。	協力医の往診があるので利用者のレベルによって、今までのかかりつけ医からホームの協力医に切り替えることもある。その場合、家族には職員から状況を伝えている。その他の病院へ行く場合は、協力医よりデータを送り連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護師が勤務しており近況を報告、相談し適切なアドバイスを受ける事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も病院、御家族と連絡を密にし状況の把握に努めている。また病院相談員とも詳細な意見交換を行い今後の対応について話し合いを持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えられた際、どのような対応を求めて見えるのかを話し合う事が出来ている。事業所として行える可能な限りの事を説明し方針を共有し支援を行っている。	介護度が上がり、利用者の状況に変化があれば、その都度家族に説明している。この1年は、看取りの支援は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力もあり急変時の初期対応、心臓マッサージ、AEDの使用方法等の指導、訓練を受け技術と知識を職員が身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団、自治区会との合同防災訓練を行う事が出来た。また施設のみでの訓練も定期的に行い全職員の意識向上に努めている。	消防署の協力の下、心肺蘇生の訓練を行っている。その際に地域の人も参加し、訓練の後利用者との交流を図ってもらっている。2ヶ月毎に自主訓練を行っており、職員が計画を立てて実行しているので、何が出来なかったかの反省も出来、職員の防災に対する意識が高くなった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を個別化し個々の習慣や特徴を充分に理解し敬意を持った対応、声掛けを心掛けている。	利用者の個別の人格を尊重し、それぞれに合った対応を心がけ、優しい言葉かけに努めている。利用者の精神面での支援にも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉として表に出る想いだけではなく、表情やちょっとした仕草にも目を配り本当の想いを理解しようと努めている。また日頃よりの関係を重視し想いの伝えやすい環境作りを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様自身のペースとスタイルにて毎日を過ごして頂いている。希望により散歩やレクリエーションなども積極的に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元美容室より定期的に美容師の来館をお願いしている。行きつけの床屋がある方には送迎を含め希望に応じた対応をとっている。また御本人と相談しながら季節毎に衣替えも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好や嚥下の状態等も考慮しおいしく楽しい食事になるよう努力している。メニューも全て職員が作成し食べ易さにも配慮している。	メニューは職員が考え、利用者も食事の準備等手伝っている。行事食や誕生日のメニューは利用者に好みを聞きながら作っている。手作りおやつは、五平餅やホットケーキなど一緒に楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の状態に合わせた食事形態での提供が実践出来ている。日中だけでなく夜間の水分摂取にも気を配りお茶等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様に応じた口腔ケアを実践している。定期的な入れ歯の消毒洗浄も行い清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的の声掛け、誘導を行い排泄のリズムを作って頂ける様に努めている。失敗を責めず、その失敗を今後活かせる様な対応を心掛けている。	チェック表をもとにトイレへ誘導している。自立の人にはトイレから出てきてから、確認している。夜間はそれぞれのリズムを考慮のうえ声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し個々の便の頻度、形状、量を記している。個々の特徴と近況を充分把握したうえでの対応に努めている。水分摂取の促し、腹部の体操、ヨーグルトの提供等日頃より便秘の予防を意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特別な行事が無い限りは2日に1度は入浴出来る体制を組んでいる。事前に意思の確認を行い気持ちよく入浴して頂ける様に心掛けている。個々の事情に応じて清拭等の対応も行っている。	毎日お風呂を沸かし、基本的には1日おきに入ってもらっている。体調に合わせて清拭のときもある。現在は拒否する人はいなくて、気持ちよく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイル、体調に配慮し自身のペース配分で生活して頂いている。日中の活動はもとより不安の解消等、精神面での平穏も安眠に繋がる事を職員は理解している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の服薬の目的、用法、用量を把握出来ている。薬に変更があった際は様子を観察し記録に残し主治医の報告、相談を行う様にしている。また服薬までに何重もの確認を行う体制を作り誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活の中で行ってこられた作業を変わらずにお願いし役割を持った暮らしを送って頂いている。また趣味や特技を引き出し夢中になれる時間を皆で共有出来る環境作りを意識している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年恒例の春の花見、秋の紅葉ドライブ、外食を楽しみにしておられる利用者様もみえる。地元社協、小学校との連帯、協力もありバスで小学校に赴き小学生との交流が図る事が出来、皆様に大変喜んで頂けた。	玄関先のベンチで日光浴をしながら、山の季節の移り変わりを眺めている。畑仕事を積極的に行っている人もいる。近くの喫茶店に行ったり、外食は3ヶ月ごとに出かけている。家族対応で、病院や外食や自宅へ行ったりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、個々の希望や必要に応じて物を購入したり、一緒に買い物に出たりしている。また金銭の使用に於いては事前、事後に御家族に相談、説明し理解と協力を仰いでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が間に入り電話を掛けて頂いている。手紙、荷物も本人宛の物に関してはすぐにお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールやトイレ等の共有スペースに於いては毎日消毒、清掃を行い安全で清潔な環境作りを心掛けている。またホールには行事等の写真、皆で協力して作った貼り絵、個々の作品を展示し楽しい思い出を共有出来るスペースになっている。	大きな掘りごたつに何人も入り、テレビを見たり新聞を読んだり、おしゃべりしたりしている。壁には皆で作った貼り絵やそれぞれの作品の習字や塗り絵などが飾られており、居心地良く過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や嗜好も考慮し座席の位置や場所を決定するようにしている。テーブルでのレクリエーション、ソファでの談話やテレビ観賞等各々の意思で過ごす事の出来る空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく愛着のある日常品を持参頂ける様にお願しい環境の変化に対する不安を和らげて頂いている。	車イスの人が多くなり、居室内がすっきりしている部屋が多い。また、ベッドから落ちる心配のある人には、少し大きめにベッドを修繕して落ちないように工夫している。テレビやこたつ、仏壇などが持ち込まれ過ごし易い環境作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今までの習慣や嗜好、現在のADLに合わせ自身が住みやすい居室にして頂いている。物の配置についても住みやすさと危険排除の両面を十分に話し合い納得を頂いた配置になっている。		